

2021 年度事業報告

1. 会議

1.1 総会

第 49 回定時社員総会を 2021 年 5 月 31 日(月)にオンラインにて開催した。主要な議題は、2020 年度事業報告と収支決算報告、2021 年度事業計画と事業予算である。

1.2 諮問会

第 10 回諮問会を 2021 年 4 月 28 日(水)にオンラインで開催した。総会に提出する議案に関し、幅広く意見を伺った。

1.3 理事会および運営審議会

理事会を 2 回(第 120, 121 回)、運営審議会を 2 回(第 29, 30 回)開催した。総会・諮問会への提出議案、学会運営等について審議した。

1.4 賞選考委員会

第 26 回賞選考委員会を 2021 年 4 月 23 日に開催し、第 45 回レーザー学会業績賞(論文賞、進歩賞)及び奨励賞を審議した。また、第 41 回年次大会実行委員会が論文発表賞の選考結果を、第 13 回産業賞選考委員会が産業賞の選考結果を、賞選考委員会に報告した。

また、第 14 回産業賞選考委員会を開催し、第 14 回産業賞の選考を行った。

2. 事業, 行事

2.1 編集委員会および会誌出版

会誌「レーザー研究」を年 12 冊(第 49 巻 4～12 号および第 50 巻 1～3 号)、毎月中旬に発行した。このため、編集委員会を 12 回(第 493～504 回)開催し、企画編集、進捗フォロー、次号ゲラ刷りのチェック等を実施した。

2.2 研究委員会および研究会

研究委員会を 4 回(第 250～253 回)、研究会を 10 回(第 553～562 回)開催した。新型コロナウイルス流行等の影響により、予定されていた研究会のうち 1 回は中止となった。開催した研究会のうち、主催は 8 回、他学会との共催は 2 回であった。主催の研究会では資料「研究会報告」を作成し、参加者に販売するとともに、年間購入予約者に頒布した。

2.3 技術専門委員会

技術専門委員会は 14 件(継続 10 件、新規 4 件)を実施した。うち 2 件が年度末で活動を終えた。学会ホームページ上に各委員会の設立・継続にあたっての目的を明らかにし、賛同者を募り、学会内コミュニティ形成のための基盤作りに努めた。

2.4 学術講演会年次大会

第 42 回大会を、併設展示会「Laser Solutions 2022」と併せ、2022 年 1 月 12 日(水)～14 日(金)の平日に開催した。神戸国際会議場(神戸市中央区)で開催予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響によりオンライン開催に変更した。シンポジウムは 15 テーマを企画した。参加者は 675 人、講演数は 407 件であった。第 43 回大会を、2023 年 1 月 18 日(水)～20 日(金)の平日にウインクあいち(名古屋市中村区)にて開催することを決定した。

2.5 国際交流

“Optics & Photonics International Congress (OPIC) 2021”を、2021 年 4 月 19 日(月)～23 日(金)の期間、原則オンラインで開催した。11 の専門会議が開催され、うち“Advanced Lasers and Photon Sources Conference (ALPS)”を当学会が、“Optical Wireless and Fiber Power Transmission Conference (OWPT)”を光無線給電技術専門委員会が主催した。

2.6 人材育成

(1) レーザー特別セミナー

2021 年 6 月 30 日～7 月 2 日に開催の“レーザー-EXPO2021”に併設して、レーザーの基礎に重点を置くとともに、レーザー応用技術、産業界への普及例、および最新の製品開発のトピックスまでを網羅した特別セミ

ナーを開催した。

(2) レーザー安全セミナー

2021年11月17日～19日に開催された“光とレーザーの科学技術フェア2021”において同時開催する予定だったが、新型コロナウイルス流行の影響を鑑み、オンラインに変更して2021年12月3日に実施した。

(3) レーザー夏の学校(第28回レーザー夏の学校実行委員会、レーザー学会共同主催)

光・レーザー分野の研究に携わる学生及び若手研究者の交流、研究意識向上を目的として、当学会として教育及び学術交流の観点から本行事に支援を行った。第28回レーザー夏の学校は2021年9月25日～26日の期間、オンラインにて開催され、61名の参加者があった。

2.7 展示会

(1) レーザーEXPO 2021

レーザー機器の展示会“レーザーEXPO2021”をパシフィコ横浜展示ホール(横浜市)にて2021年6月30日～7月2日に開催した。

(2) Laser Solutions 2022

第42回年次大会において、レーザー機器、書籍等の展示会“Laser Solutions 2022”をオンラインで併催し、7社の出展があった。

2.8 表彰, 認定, 賞推薦・助成推薦

(1) 表彰

第45回レーザー学会賞(業績賞・論文賞, 業績賞・進歩賞, 奨励賞), 学術講演会第41回年次大会論文発表賞および学会活動に貢献のあった者の表彰を行った。また、レーザー関連技術及び事業において顕著な功績のあった者にレーザー学会産業賞(優秀賞, 奨励賞, 貢献賞, 特別賞)の表彰を行った。

(2) 上級会員・フェロー認定

上級会員/フェロー候補者は称号審査委員会で審議され、第120回理事会で承認された。認定された会員には、他薦の場合は本人同意を得たうえで、結果を会誌およびホームページに掲載し、フェローについては認定書授与を実施した。

◇フェロー認定者: 2名

◇上級会員認定者: 7名

(3) 賞推薦, 助成推薦

レーザー学会会員に各種学術賞, 研究助成案件を広く案内した。学会から推薦した結果、今年度は以下の方が受賞した。

◇第13回泰山賞レーザー進歩賞(電気通信大学大学院・美濃島 薫氏)

2.9 支部活動の展開

支部活動の活性化による地域の状況に応じた会勢拡張と位置付けて、国内6支部にて、地域の会員へのレーザー関連学術情報提供サービス推進のため、単独および他学会支部との共催によるセミナー、研究会、講演会開催、情報交換、支部表彰等の活動を実施した。

2.10 関連学協会等との連携および協力

他学会、研究団体および関連業界との共催、協賛、後援による研究会、講演会等の開催を通じて、関係団体との連携、協力を推進した。日本光学会と双方の学術講演会で、応用物理学会・ALAN コンソーシアムとレーザー学会学術講演会で、ジョイントシンポジウムを実施した。日本工学会には阪部周二副会長が監事として参画した。

2.11 特別事業計画

2023年4月13日の学会創立50周年に向けて、編集委員会、総務委員会等で学会創立50周年記念事業に関する検討を行った。

2.12 その他の活動(提言書の発信)

産学の専門家によるタスクフォースを立ち上げ、提言書「2050年カーボンニュートラルへのレーザー技術の貢献」を作成し、ホームページ、第42回年次大会シンポジウムなどを通じて発信した。

3. その他

3.1 会員動向(年度比較)

賛助口数は年度末に減少し、前年度実績を下回る。会員数は前年度末の減少を反映して推移。会員数の月別推移から、年次大会の影響が大きいことがわかる。会員数に民間が占める割合は、昨年度と変わらず 3 割強である。光・レーザー応用分野の幅広い取込みが課題である。

2021 年度, R3 年度(2022 年 3 月)

個人会員 1,218 名(正会員 1,094 名、学生会員 118 名、名誉会員 6 名), 賛助会員 94 社(117.75 口)

(参考)

2020, R2 年度(2021 年 3 月)

個人会員 1,214 名(正会員 1,088 名、学生会員 120 名、名誉会員 6 名), 賛助会員 97 社(121.75 口)

2019, R1/H31 年度(2020 年 3 月)

個人会員 1,269 名(正会員 1,132 名、学生会員 132 名、名誉会員 5 名), 賛助会員 93 社(117.75 口)

2018, H30 年度(2019 年 3 月)

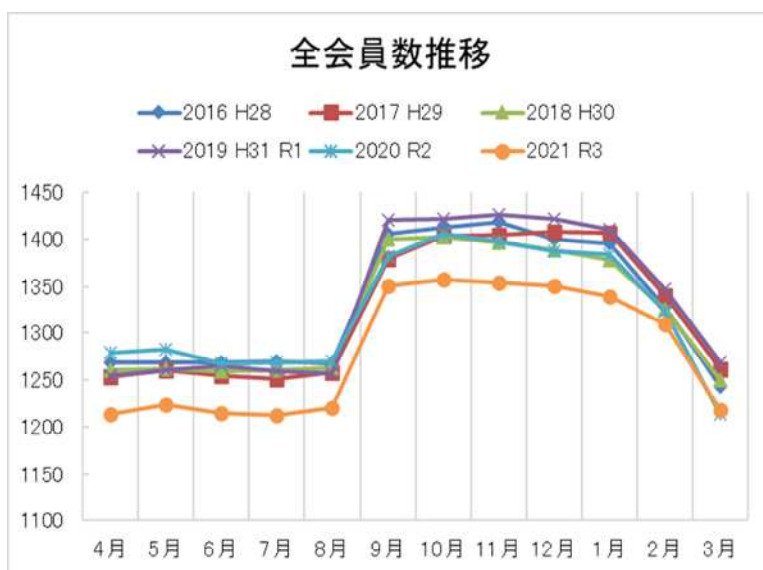
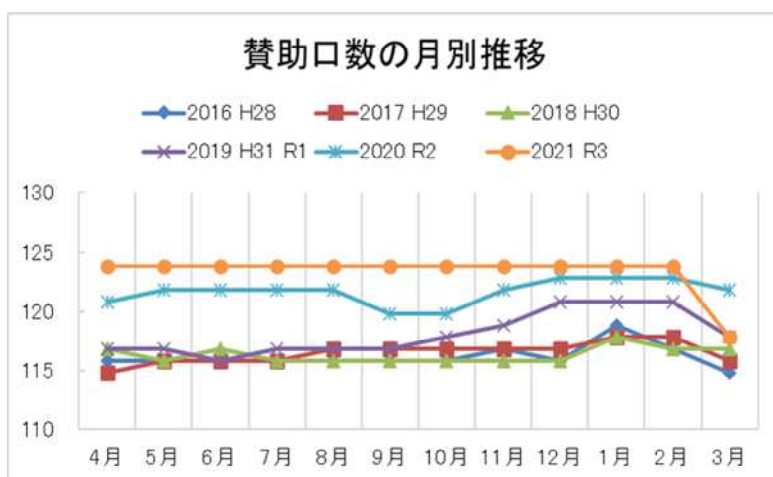
個人会員 1,250 名(正会員 1,126 名、学生会員 119 名、名誉会員 5 名), 賛助会員 92 社(116.75 口)

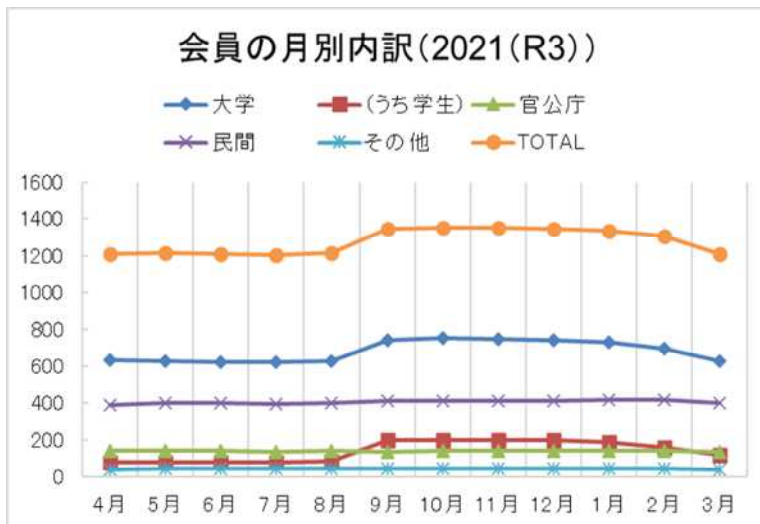
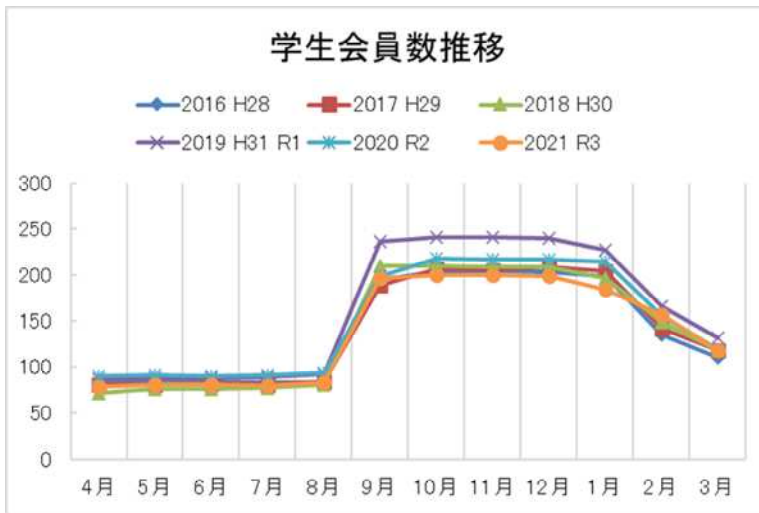
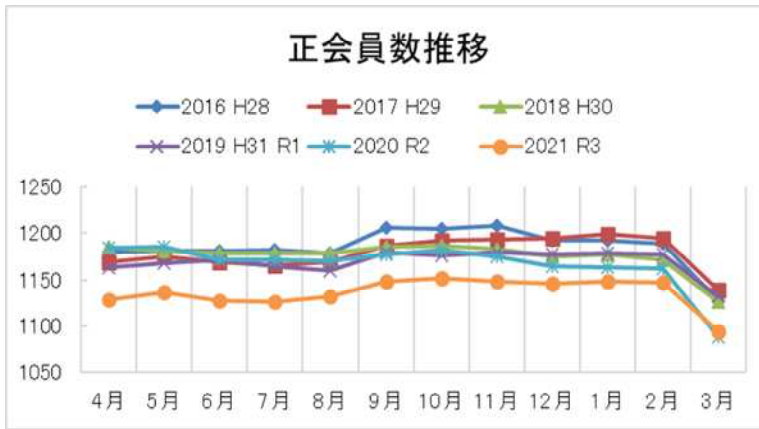
2017, H29 年度(2018 年 3 月)

個人会員 1,262 名(正会員 1,139 名、学生会員 119 名、名誉会員 4 名), 賛助会員 90 社(115.75 口)

2016, H28 年度(H29 年 3 月)

個人会員 1,243 名(正会員 1,128 名、学生会員 111 名、名誉会員 4 名), 賛助会員 88 社(114.75 口)





2022年3月現在の会員の内訳

